

素顔

3

孤立する人の悩みを 手紙で受け止める

安楽寺副住職

藤澤克己さん



2006年、寺を継ぐため20年間のサラリーマン生活を辞めた。「生死(しょうじ)」にかかわる者として人々のために何かしたいとの思いから一念発起し、自殺防止センターやNGO(非政府組織)の活動に参加。自死で家族を失った悲しみに耐える遺族たちの姿に突き動かされた。

と「自殺対策に取り組む僧侶の会」を設立、手紙相談を始めた。寄せられた手紙には僧侶が返事を書くが説教はしない。大事なのは相手の思いを受け止め、寄り添うことと信念をもつ。「一切皆苦」という言葉があるように、人生は楽しいだけなく苦しみがあります。苦しい時は大いに悩み、つらい思いを吐露する。そう

することで、人は立ち直ることが出来るんです」現代は、悩みを打ち明けられず孤立する人を大量に生み出す社会。藤澤さんは「安心して悩める社会づくり」を目指し、いずれは「駆け込み寺」の復権を願っているという。

◆手紙の宛先 〒108-0073
東京都港区三田4-8-20
往復書簡事務局